



みみょう幼稚園だより



令和6年4月号



<http://mimyo.org/youchien/>

理事長 松尾 竜

お子さんのご入園、ご進級おめでとうございます。

新入園児はもちろんのこと進級児にとっては、しばらくは緊張の毎日になるものと思われます。園では、一人ひとりの気持ちに寄り添いながらあたたかく見守ってまいります。

さて、新年度にあたり、「みみょう」の保育理念・方針をご理解いただくため、「みみょう(微妙)」の名の由来を説明します。

「仏説阿彌陀經」の中に、阿彌陀さまのおられる極楽浄土の蓮池の蓮の花の咲く様子をあらわして、「青色(しょうしき)青光(しょうこう)、黄色(おうしき)黄光(おうこう)、赤色(しゃくしき)赤光(しゃっこう)、白色(びやくしき)白光(びゃっこう)、微妙(みみょう)香(こう)潔(けつ)」という節があります。その意味は、青い花は青く光り、黄色い花は黄色く光り、赤い花は赤く、白い花は白く、それぞれが自分の色で光り輝いて、何ともいえないほど素晴らしいということです。「みみょう」という園名には、一人ひとりの子が、それぞれ持っている自分の個性を發揮して輝いてほしいという願いが込められています。

子どもが自分らしくいきいきと光り輝いて育っていくためには、いかに子どもを取り巻く大人たちが、子どもに関心を持ち、しっかりとかわり、しっかりと話を聞いてあげているかということに尽きると思います。「三つ子の魂百まで」と言いますが、特に3歳までは応答的なかわり(子どもの要求に応じて気持ちを受け止め、言葉を代弁し、同じことを満足するまで繰り返す)が大切となります。

また、昨今、グローバル化の進展や技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく変化する中、多様性と新たな価値を生み出していくことが求められています。そこで、「子どもを主体とした協同的な学び」がさらに重要視されるようになってきました。子どもが主体的、能動的に遊び込む中で人とのかわりや対話を通して学ぶことを促すという考えであり、目標に向かって粘り強く頑張る力、人と上手にかかわる力、感情をコントロールする力といった“非認知能力”を総合的に高めることをねらいとしています。

“非認知能力”を育むためには、0歳からその子のあるがままを「愛し」、心から「ほめて」、そして「認めて」あげることです。そして、応答的で丁寧なかわりが「自己肯定感(自分は大切な存在だと無条件で感じる心の感覚)」を育み、五感を通して身体で感じる様々な経験につながり、「もっと〇〇したい」という意欲や探求心を高めていきます。さらに興味ある様々なことに粘り強く挑戦し、できなかったことができるという達成感を味わう経験の積み重ねが、“非認知能力”そして“生きる力”につながると考えています。

そうした考えのもと、みみょうでは、①子ども主体の保育、②非認知能力を高める保育、③自己肯定感を育む保育、という3つの柱を掲げて保育を実践しています。これらを実践していくためには、0歳から応答的で丁寧なかわりを重視することはもちろんですが、学びに向かう力、

言い換えれば、様々なことやものに興味を持ち、集中し、持続し、挑戦しようとする意欲を、遊びを通して身につけていくようにしていくことが大切です。そのことが、園名などにもあるように、一人ひとりの子が、それぞれ持っている自分の個性を發揮してひかり輝く保育につながっていくと考えます。

しかし、子どもの主体性は、園内での様々なあそびや経験だけでは十分に育ちません。主体性を育む一番の鍵はご家庭にあります。ご家庭内では「あれしなさい、こうしなさい」とつい大人が指示を出してしまうことも多いのではないかと思います。その場合指示がないと動けない子に育ってしまう可能性があります。そうならないためにも、子どもから「これはどうしたらいいの？」と聞かれたら、「あなたはどう思うの？」と聞き返すことが大切です。その積み重ねが、自分なりの考えをもって行動できるように少しずつ変わっていきます。また、指示することが多いと、考えを一方向的に伝えることにもなり、例え間違えがあったとしても、自分で考えさせるという時間も必要だと思えます。そして、難しいことはヒントをあげたり、二択などの選択制にしてあげてもいいと思っています。その積み重ねが、主体性を育むことにつながっていきます。

本年度も、毎日が「子ども中心の保育」であり、「楽しい保育」となるよう心掛けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



ご入園・ご進級おめでとうございます

園長 三上 玲子

いよいよ令和6年度がスタートしました。

創立99年目を迎えた今年度、みみょう幼稚園は、幼稚園型認定こども園に移行するという大変大きな節目を迎えることとなりました。新たに加わった0・1・2歳の小さなお子さんの教育・保育を進めることによって、より豊かで質の高い教育・保育の提供できる「幼稚園を創ってまいります。「感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子に」という保育理念をこれからも中心に据えて、一人ひとりのお子さんの豊かな未来の土台作りに邁進してまいります。そのためには、ご家庭との連携が不可欠です。保護者の皆さんにも、園の活動にしっかりと興味関心と足を向けていただきたいと思えます。お子さんの日々の成長や変化を幼稚園とご家庭とでしっかりと受け止めて、共に考え、話し合いながら、喜びあっていきましょう。

職員一同、力を合わせて頑張ります。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。



2024.3.29 令和5年度の最終日、預かり保育のみんなと先生たちみんなで屋上にあがって、お弁当を食べました。

今年度より、週5回の給食を開始いたします。給食時間も大切な教育・保育活動として、お子さんの心身の成長の糧としたいと考えています。献立は、きずノートやInstagramでも紹介しています。また、幼児組さんでは、今年度も引き続き、毎週水曜日、保護者の皆さんに配膳のお手伝いをお願いします。

これからは、遠足などの特別な日に限りお弁当の用意をしていただくこととなります。行事の日程など、変更が必要となる場合にも、早め早めにお知らせし、ご相談してまいります。皆さまお気づきの点など、教えていただきますと幸いです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和6年
5月号

みみょう幼稚園だより



*****<http://mimyo.org/youchien/>



“めばえ・つぼみ組”へようこそ

3階の乳児室です。入園1か月を迎え、先生やお友だちと過ごすことに、安心感や落ち着きが見られるようになりました。一人ひとりの育ちや個性が満開で、可愛い笑顔に、やりたい、さわりたい、つかみたい、うごきたい…にあふれています。先生たちは、そうした様子を丁寧に見取って手作り玩具や段ボールの坂道など、毎日変化を加えながら用意をしています。園庭やテラスにも積極的に出かけています。大勢のお兄ちゃんやお姉ちゃんとのふれあいもどんどん楽しんでほしいと思います。

こどもも保護者も楽しく

新年度がスタートして、あっという間に一か月が経ちました。昼食も食べて帰るようになり、新しい生活に随分と慣れて、新入園児さんみみょう幼稚園の一員として、元氣いっぱい過ごしています。新設された乳児組の0歳・1歳・2歳さんたちも新しい環境の中で、手作りの玩具や感触あそびにしっかりと興味を示し、果敢に挑戦する姿を見せてくれています。

幼稚園型認定こども園としてスタートを切った今年、これまで、信頼していただいていた教育内容を、いっそうパワーアップさせる大切な節目の年として、職員一同一丸となって教育・保育を進めて参ります。保護者の皆様もお気づきの点は、どうぞ遠慮なくお伝えください。皆さんといっしょに、より豊かで楽しい園生活を目指していきたいと張り切っています。

保護者の皆さんとともに

主体性を伸ばしていくために

懇談会でもお話させていただきましたが、子どもたちの健全なる育成には、ご家庭と幼稚園とが、同じ思いをもって教育や養育の環境を作っていくことがとても大切です。大好きなお家の人と大好きな先生が、異なる教えや行動を投げかけてしまうと、子どもはとても迷ってしまい、そのどちらの行動もとれなくなるだけでなく、大人への不信感にもつながりかねません。

例えば、幼稚園では、指示や制止、否定的な言葉をできるだけ遣わないようにしています。あらゆる場面で、子ども自身が気づいたり考えたりする機会を増やしていき、先生たちは、子どもたちのそうした姿をしっかりと理解し、認めてあげることを大切にしています。

新年度が始まり、初めてたくさんの新しいお友だちと出会ったつくし組さんや年少さんの保育室では、大好きなあそびを見つけたお友だちのおもちゃを取ってしまったり、中断させてしまったりする姿が見られます。泣いてしまうこともたくさんありますが、本当に危険な場合を除いて、先生たちは、決してこわい顔を見せたり、大きな声で咎めたりすることはありません。お互いの気持ちにしっかりと寄り添い、双方ともに、また張り切って遊び続けられるように促していきます。なかなか難しいことなのですが、子どもたちはそうした経験を繰り返すことによって、考えたり判断したりする機会が増え、自己肯定感や人への信頼感も育まれていきます。そして、一緒に遊ぶことの楽しさも知っていきます。0歳・1歳のお部屋でも同様に、一人ひとりの表情や思いをしっかりと尊重した関りをしています。お家の方でも、ぜひ、チャレンジしてみただけでないでしょうか、お忙しい毎日の生活の中で、待つ時間を持つことは難しいかもしれませんが、少し意識をしていただくだけでも、大きな効果があると思います。可愛いお子さんを真ん中に足並みをそろえていきましょう。